



# 元気っ子

No 333 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

先月は是非、ご家庭でも実践して下さいと、「自尊感情（自己肯定感）」の育み方と「自己決定」のできる環境設定についてお話をさせて頂きました。些細なことかもしれませんが、ご家庭における子どもとの関わりと保育園における子どもとの関わりの違いが大きい場合、卒園するときの姿が違ってくる場合がありますので、是非意識して取り組んで頂ければと思います。より具体的に聞いてみたいことやご不明な点がありましたら、いつでもお声掛け下さい。

さて今月は「発達の順序」についてのお話をさせて頂きます。子どもの発達は早い子遅い子と「早さ」には個人差がありますが、「順序」は全ての子どもが同じです。赤ちゃんが寝がえりをし、ハイハイをし、掴まり立ちをし、歩行が始まるといった具合です。この辺りのことは当たり前のことではありますが、保育においてはとても大切なことなのでしっかりと意識しておく必要があります。なぜなら、この順序を逆にしたり、飛び越えて次の段階に進んでしまうと、将来、発達が逆転してしまったり、あとになってその発達が十分に遂げられていないことが影響することがあるからです。このことを意識したうえで、「早期教育」について考えていきます。

世の中には英会話や学習塾などを就学前から勧められることがあるかと思います。当然、子どもがたくさん通えば利益が生まれるので、営業活動が活発になるのでしょう。しかし、就学前の子どもたちには、発達の順序的に、学習よりも先に遂げなくてはいけない発達があります。それは保育所保育指針にもあります「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」にも明記されていますが、「自立心」「道徳性・規範意識の芽生え」「思考力の芽生え」がそれに当たります。要は、「一定の時間しっかりと姿勢を保持する（体幹）」や「聴くべき話にしっかりと耳を傾ける」ことを幼児期にしっかりと身に付けておくという必要があるということです。この部分の発達を飛び越えて、学習の領域に入っていくと、「しっかりと座っていなくても勉強が分かる、先生の話も聴かなくても問題が解ける」と子どもの中に変な錯覚や誤解が生じてしまいます。小学校低学年頃まではそれでも成績はそれなりに維持するでしょうが、中学校・高校・大学ではそうはいきません。成績が落ち込んで、学習塾の時間を増やしても、「姿勢の保持」や「傾聴すること」の発達を十分に遂げていないので、効果はあまり期待できません。また何とか成績を保持したとしても、自律的に学びを深めたものではないので、社会に出てから躓くことも予想されます。

こういったことを理解したうえで、子どもの発達や成長を見守って頂けたらと思います。英会話や学習塾はそれなりに高額なコストが発生するかと思います。是非、その分の資金で、子どもに絵のない本を買ってあげて毎日少しずつ読み聞かせすることや、マナー等に気付かされやすい公共交通機関等を使ったお出掛けを企画して頂きたいと思います。美しい景色や建物を見て感動したり、こういった環境や大人の関わりを通して、子どもたちの脳や身体は学習に向けた準備を整えていきます。

そして発達の早い遅いは他人と比べるものでも、早ければ良いものでもありません。育児本などに平均値が書かれたりすることもあります。しかし、「しっかりとその発達を遂げる」ということを大切に、意識して頂ければと思います。今月もどうぞ宜しくお願い致します。